

群馬県立盲学校 学校評価一覧表（令和7年度版）

（様式）

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題	
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合				
Ⅰ 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていいますか。	①「学校の様子がよく分かる」と保護者の80%以上が答えている。	教頭	○様々な機会を捉えて保護者と情報共有を図る。 ○学校だより、ホームページ、クラス通信、一斉メール等を通じて、学校の教育活動について積極的に情報発信する。	A	A	A	・送迎時に幼児児童生徒の状況を保護者と共有する他、定期的に面談を実施することで、保護者と連携して幼児児童生徒の指導を行うことができた。 ・学校だより、クラス通信等を月に1度発行することで、学校の取組を保護者に伝えることができた。	・保護者とは送迎時も含め、引き続き、丁寧な情報共有に努める。 ・学校だより、クラス通信の発行、ホームページの更新を継続する。 ・一斉メール等を活用し、紙媒体からデジタルへの移行について検討を進める。	
		②地域や関係機関等に学校の様子を伝える活動を、年10回以上実施している。	教務主任	○幼児児童生徒の個人情報の取り扱いに留意しながら、本校の様子や教育活動について地域や関係機関等に伝えられるようにする。また、ホームページも活用し、効果的な発信をする。	A		A	・ホームページを活用して、学校の様子や教育活動を伝えることができた。また、学校だよりも定期的にアップロードした。 ・学校だよりを南町二丁目、四丁目に回覧することで、自治会長や地域住民の理解を促進できた。回覧は月1回、計12回(予定を含む)依頼した。	・以前、地域住民から「寄宿舍では何をやっているのか」という声があり、取組を説明してもらったことがある。今は、学校だよりを回覧することで、盲学校の取組が分かり、偏見がなくなっている。継続してほしい。	・学校だよりの回覧など、学校の様子を地域や関係機関等に伝える取組を今後も継続していく。
		③県内の自治体や視覚障害関係機関(視覚障害福祉センターや点字図書館等)と連携を密にし、啓発活動を行っていると感じる職員が80%以上いる。	センター・啓発	○ホームページやメールなどを活用し情報を発信する。 ○まゆだまネットなどの場を利用し、関係機関と連携を密にする。	A		A	・啓発動画(介助歩行)の作成に取り組んだ。完成次第、本校YouTubeチャンネルにアップする予定である。 ・まゆだまネットに参加し関係機関や参加者と情報交換を行うことができた。	・群馬県視覚障害者福祉協会では2029年の障スポに向けて取り組んでいる。グランドソフトボールの練習会場として盲学校にはお世話になっている。サウンドテーブルテニスも練習会を行っている。連携していきたい。	・啓発動画を完成させ、本校YouTubeチャンネルにて公開していく。 ・まゆだまネットについては、盲学校としての参加の仕方、テーマ設定等を検討し、より理解が深まるような内容にしていく。
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	④PTA総会、役員会、各学部会、まゆコースジュやなどPTA行事に参加し、内容に満足している保護者が80%以上いる。	渉外部	○役員同士が協力し合えるよう、また、保護者が参加しやすいような活動を企画する。 ○保護者同士が情報を共有し、学部内や学部を越えた繋がりがもてるような活動を企画する。	A	A	A	・PTA総会や各学部会、まゆコースジュなど、抱き合わせ開催にし、参加しやすいようにした。 ・役員会で役割分担表を作成・確認することで負担軽減を図った。		・関盲Pの会場校としてスムーズな運営が行えるよう、保護者との連携・協力を図る。また、役員会の実施時期を見直し、群特Pの協力が得られるようにする。 ・PTA会員の参加しやすい行事を設定する。
		⑤地域の学校や関係機関と連携を図り、情報共有や交流などが十分に行われていると感じる保護者が80%以上いる。	センター・交流	○学校間交流や居住地校交流の推進・実施を図り、事前の情報交換を十分に行う。 ○感染症への対策をしながら、地域の関係機関と情報交換・連携し、交流を推進する。	A	B	A	・交流件数は昨年度とほぼ同様であった。オンライン交流の回数が増え、遠隔地との交流ができた。 ・交流を行う上で、相手校と必要な回数の情報交換を行うことができた。		・居住地校交流や学校間交流を今後も継続していくとともに、県外の盲学校等とのオンライン交流も推進していく。
Ⅱ 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 視覚障害や視覚認知発達に課題のある幼児児童生徒等の教育について、助言援助に努めていますか。	⑥地域の視覚障害支援センターとして教育相談やキャリア支援などを実施し、関係機関との情報共有をして連携・協力体制を取れているケースが80%以上ある。	センター 目の相談	○来校相談後の報告など、相談者の関係機関との情報共有を行うことで、支援・協力体制を強化する。 ○相談者や関係機関に対して、活用しやすい情報提供を行う。	A	B	B	・80%以上のケースで関係機関との情報共有を行うことができた。 ・相談者や関係者に対し、具体的に分かりやすく話すことを心がけ、活用しやすい支援方法や教材を紹介することができた。	・校内の良いケースについても言語化し、相談者や来校者へ伝えていってほしい。	・信頼関係を大切にしながら、相談支援を行っていく。また、校内での有効な支援についても、積極的に伝えていく。
		⑦地域支援・啓発活動として、学校見学の受け入れ、研修会の実施、講師派遣等の要望に80%以上応じている。	センター・啓発	○資料の送付による情報提供や、本校職員を講師として派遣するなど、視覚障害者についての理解を深めるための活動や学習を進める。	A		A	・市内の小学校や県内の高校からの要望を受け、視覚障害者の理解を深める授業や講義を行うことができた。	・実際の盲学校での様子などを発信することで、偏見をなくしたり、理解を促したりすることが期待できる。	・実施時期や回数を見直し、職員の負担にならないよう啓発を継続していく。
Ⅲ 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	⑧幼児児童生徒一人一人の課題解決に向け取り組んでいると思う職員が80%以上いる。	生徒指導部 部主事	○アンケートや面談を行い、得られた情報を分析し、課題の早期発見に繋げる。	A		A	・いじめ等の情報を入手した場合は早急に委員会を開催して対応策を協議し、必要に応じて外部の専門機関に繋げるなどの対応をした。	・学校評議員会の資料に載っている幼児児童生徒の写真をみると、皆よい顔をしている。よい教育活動をしていると思う。	・引き続きアンケートと面談の情報共有を確実に実施し、幼児児童生徒に寄り添う指導につながるように活用する。
		⑨幼児児童生徒のいじめ対策への取組が、保護者の80%以上に認められている。	生徒指導部	○いじめの早期発見に向け、各学期に1回のアンケート調査を実施する。 ○PTA総会において保護者に対し、本校のいじめ対策への取組についての説明をし、その内容の共有を図る。	A	A	A	・各学期の生徒指導アンケートは100%回収し、全てに目を通して面談や保護者からの聞き取りの記録は供覧して情報共有した。 ・PTA総会で学校のいじめ対策を説明し、職員に対して職員研修を通して学校の取組を周知した。		・いじめ対策基本方針について、生徒指導部内で内容の確認をし、変更の必要性の有無を検討する。
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	⑩個々のニーズに応じた教材や指導の工夫に努めていると思う保護者・職員が80%以上いる。	教科研究グループ	○幅広い実態の幼児児童生徒へ対応するためにICT活用を含めた効果的な指導方法を各教科・学部で情報共有しながら指導方法の改善を図る。「指導の工夫事例」を一人一事例作成する。 ○群馬大学等外部専門機関と連携し、ケース検討会を実施することで、幼児児童生徒への指導力の向上に繋げる。個別面談やケース会議等を通して保護者への情報共有を図る。	A	A	A	・各学部で年2回個別の指導計画検討会を実施し、教員間で情報を共有し指導内容を検討した。 ・「指導の工夫事例」を一人一事例作成することで、各教科研究グループや自立活動研究グループで指導の工夫を共有することができた。 ・外部専門家派遣事業や群馬大学からの講師派遣を活用し、ケース検討会を複数回実施することができた。	・具体的にどの取組が幼児児童生徒の成長につながったか、保護者の信頼を得ることになったか、言語化し、発信していくことが大事である。 ・自分たちの強みは何かを明確にして共有することが重要である。	・今後も効果的な指導方法を各教科・学部間で共有しながら指導方法の改善を図っていく。 ・個別相談やケース会議等を通して、保護者と幼児児童生徒の成長を言語化し、共有していく。

群馬県立盲学校 学校評価一覧表（令和7年度版）

（様式）

羅針盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題	
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等					総合
IV 視覚障害教育の専門性がある特別支援学校を目指す取り組みが行われていますか。	6 専門性の継承と深化に向けた研修や発信するための取組が行われていますか。	①専門性・指導力を高めるための研修を組織的・計画的に年3回以上実施している。	研修部・自立活動研究グループ	○幼児児童生徒の実態、指導面での課題に合わせて、点字、歩行、弱視教育、重複障害教育、ICT活用に関する校内研修やワークショップを実施する。	A		A	・小規模学習会を7回企画し、各教員のニーズに合わせて参加できるようにした。 ・重複障害教育では、事例研修を行った。子ども発達支援センターに行ったり、群特研修会を実施した。 ・ICT活用では、パソコン操作の研修を実施した。読書バリアフリー法の研修を実施した。 ・歩行指導では、新たな指導システムの構築や単独歩行の可否判断に焦点を当てた研修を行った。	・今後も各教員のニーズに合った学習会を企画し、参加できるようにする。 ・点字、歩行、弱視教育、重複障害教育、ICT活用などの専門性は本校の強みであることを明確にして共有し、教職員一人一人の専門性の底上げを図る。	
	7 専門性を高めるために、校務分掌や委員会などが組織体として機能していますか。	②ケース会議、授業研究、各学部及び寄宿舎における研修が、視覚障害研究・研修部が持つ専門性と連動して行われ、効果を上げていると感じる職員が80%以上いる。	教頭 研修部・自立活動研究グループ	○視覚障害研究・研修部の専門性を各学部及び寄宿舎における実際の指導・支援に生かせるように、積み上げた実践例や教材教具の継承を含め、情報共有を効果的に行う。	A		A	・全教員が教科研究グループ、自立活動研究グループ、寄宿舎のいずれかに所属し、定期的に研修を行い、その中で指導や支援について話し合い、検討することができた。また、教材点検を行い、教材教具の継承を含めた情報共有を行うことができた。	・好事例について、話し合いの中で言語化し、共有してほしい。	・積み上げてきた実践例や教材教具が確実に継承され、情報共有が効果的に行われるように、情報共有の仕方や継承の仕方を工夫する。 ・今後も研修や話し合いの中で効果的な指導方法や指導の工夫等を言語化して共有していく。
		③学校評価による改善の取組が校務分掌と連携して進められていると感じる職員が80%以上いる。	教頭	○学校評価アンケート等の結果を各分掌で分析し、具体的な対応策を検討し、学校教育の改善に繋げる。	A		A	・学校評価改善委員会を定期的に開催し、学校評価一覧表や学校評価アンケートの結果を共有することで、組織として、業務改善に取り組むことができた。	・今年度の取組について、改善を要することは見当たらない。来年度、継続していくことに加え、広げすぎないことも検討してほしい。やろうと思えば限界がない。あえてここまでよい、という判断も必要である。	・学校評価が教育活動の質の向上や業務改善につながるよう、組織的な取組を継続する。 ・学校評価一覧表の羅針盤、方策について、各分掌で再検討し、一層実効的なものとなるようにする。
		④幼児児童生徒一人一人のニーズに応じた教育計画を立てる上で、校内教育支援委員会や教育課程委員会が機能していると感じる職員が80%以上いる。	教育支援委員会	○校内教育支援委員会や教育課程委員会で、学部を越えて全体的・長期的な視点で課題を共有し、指導・支援の適切な方向性を見出す。また、必要に応じて臨時委員会を開催する。	A		A	・今年度新たに設置した教育課程委員会では、学部を越えて意見交換をしたことで、来年度の教育課程の検討と共通理解を図ることができた。		・学部を越えて、各学部の教育課程や幼児児童生徒の状況について、意見交換したことは有意義であった。今後も継続したい。
8 障害に配慮した教育環境の整備が行われていますか。	⑤視覚障害などに配慮して校内の施設・設備の整備が行われていると感じる保護者・職員が80%以上いる。	管理部 事務部	○危険な箇所や修繕してほしい場所を保護者アンケートや児童生徒アンケートで情報を集める。 ○保護クッションや点字ブロック・手すりなどの設備の点検を行い、必要に応じて、修繕をする。	A	A	A	・危険な箇所（幼稚部教室や理療科実習室、職員室など）へは、クッション材を貼ったり、修繕したり交換したりして迅速かつ適切に対応できた。 ・南側道路の点字ブロックの補修が前橋市によって行われた。北側駐車場の点字ブロックの修繕を行った。	・高度化PICSが1月から3カ所新たに増設された。群馬県視覚障害者福祉協会では警察とも連携して視覚障害者の安心・安全な生活をサポートしている。今後も連携してほしい。	・廊下や柱の角などに貼ってあるクッション材の劣化があったり、廊下の滑り止めが剥がれたり、交換や修繕が必要な箇所が出てきているので、今後も迅速に対応していく。	
V 健康や安全の確保に努めていますか。	9 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	⑥幼児児童生徒の健康状態や安全への対応が適切に行われていると感じる保護者・職員が80%以上いる。	健康指導部	○状況に応じて必要な感染症対策、熱中症対策を講じる。 ○健康診断事後指導を徹底する。 ○学部・保護者・寄宿舎と連携して健康状態を把握し、適切に対応する。 ○保護者・指導医・看護師・学校間の連絡、連携を密にし、医療的ケアを適切に行う。 ○学校給食を通して、食事の大切さや望ましい食習慣を身に付けさせ、健康教育を推進する。	A	A	A	・イントラネットで感染症や熱中症予防の注意喚起を行った。学級で指導する際に使用できる啓発教材等を紹介した。 ・受診終了の提出がない場合には、治療勧告を再度配付して受診を勧めた。 ・幼児児童生徒の健康面について情報共有することで、迅速、かつ、継続して適切に対応できた。 ・関係者の連携を密に図ることで、安全に医療的ケアを実施することができた。 ・給食だよりや給食時の校内放送で、食についての様々な情報を発信することで、興味関心を高めることができた。	・今年度も、学校精神科医に「希死念慮のある児童生徒への対応」というテーマで講話をしていただき、児童生徒理解と対応の研修を行うことができた。 ・今後も、関係者・関係機関と連携を図り、幼児児童生徒の健康状態の把握に努め、適切な配慮や対応を行っていく。 ・健康診断後の受診は、必ずしてもらえよう働きかけていく。	
	10 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	⑦緊急時の対応や施設・設備の安全に備えた訓練や点検が行われていると感じる職員が80%以上いる。	管理部 寄宿舎	○大地震や停電の場合など様々な場面を設定して避難訓練を実施する。 ○備蓄品のデータ管理を随時行う。 ○毎月の安全点検を行う。 ○職員の防災の知識向上を図る。	A		A	・避難訓練（地震、火災、水害、不審者）では、部主事不在、停電で放送機器が使用できない、室内避難など、様々な状況設定をして行い、課題を見つけて改善していった。スムーズな集約を行うため、避難時の点呼チェックシートを用意した。 ・備蓄品のチェックを行い、適宜入れ替えを行った。	・今年度も様々な場面を設定して避難訓練を実施していき、有事の際には落ち着いて避難できるようにしていく。 ・安全点検を月初めに依頼しているが、できるだけ迅速に実施してもらえよう働きかけていく。	
	11 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	⑧キャリア教育の視点に立って将来を見据えた体系的な指導が行われていると感じる職員が80%以上いる。	進路指導部	○「キャリア教育全体計画」を教員、保護者に周知して共通理解を図る。 ○キャリア教育の視点に立った具体的な指導・支援を授業に反映する。	A		A	・キャリア教育全体計画を保護者に配付した。また、職員会議において職員への周知を図った。 ・各学部においてキャリア教育の視点に立った指導・支援を行うことができた。	・群馬県視覚障害者福祉協会では1月に全盲の弁護士による講演会を開催した。スポーツでもそれ以外でも活躍する視覚障害者がいることを伝えることが、幼児児童生徒の励みになる。	・キャリア教育全体計画の周知を進める。 ・キャリア教育の視点から活用できる活動を生徒数の減少を踏まえ検討を行う。
⑨あんま・マッサージ・指圧師、はり師、きゆう師国家試験に全員合格する。R7から実施する定期試験を原則四者択一問題化の成果と課題を確認し、生徒が学習効果を発揮しやすい方法を模索する。		専攻科	○早期から本試に対応できる環境を作る。記述から選択に解答方法が変わっても考えて解くことと復習の大切さを指導し、視覚障害の負担軽減と実力養成を両立できるようにする。	B	B	B	・定期試験では好成績を取っている者が多いが、国家試験模試は伸び悩んでいる。生徒からは質問や相談への対応は評価されているが、学校生活の充実や学習内容の定着は満足度が低かった。筑波技術大学出前授業の実施は知識技術の定着に効果的だった。		・国家試験の合格率を上げる。 ・1年次の前半で、点字、タブレット、PCの使用法など、学習に必要なスキルを身に付けるための指導方法を検討・実践する。 ・定期試験の四者択一化を振り返り、学力向上に向けより良い方法を模索する。	
12 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	⑩発達段階や実態に応じて、一人一人の将来へ向けての指導（あいさつや清掃等の指導も含む）が行われていると感じる保護者・職員が80%以上いる。	進路指導部	○発達段階や実態に応じた進路行事を検討する。 ○各関係機関との連携を深め、一人一人の実態に合った進路指導を実現する。 ○「進路だより」等で進路情報の提供を積極的に行う。	A	A	A	・年度当初に計画した行事は計画どおり実施できた。 ・関係機関との連携を図り進路指導にあたることができた。 ・進路だより等、関係する進路情報の提供をできた。		・将来の開業希望を考慮して情報提供を行う。 ・新しい求人情報の収集について検討する。	
VII 将来の自立に結びつく寄宿舎指導を行っていますか。	13 身辺自立・社会自立に向けての指導を個に応じて行っていますか。	⑪身辺自立や社会自立に向けた指導が、一人一人に応じて適切に行われていると感じる保護者・職員が80%以上いる。	寄宿舎 自立研修グループ	○児童生徒の実態を適切に把握し、一人一人に合った生活自立、余暇の充実に向け、生活体験や社会体験を実施する。 ○ホームページへの掲載や寄宿舎便り等を通じて、寄宿舎生活における具体的な取組状況を発信する。	A	A	A	・児童生徒の目標に応じて、場所や内容を児童生徒と一緒に考え、個別または集団で、複数回社会体験を実施した。 ・各棟ごとに、日頃の生活の様子や行事の様子などの写真を掲載したお便りを作成した。ホームページにも行事ごとに様子を掲載した。	・今後も生活や行事の様子などを発信してほしい。	・児童生徒の実態に応じて様々な取組内容を職員や友達とともに考え、児童生徒の目的に即した体験を実施していく。 ・今後も各棟や寄宿舎全体のお便りを作成したり、各種行事の様子をホームページに掲載したりして、情報発信をしていく。